

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症高齢者グループホームあさひ
(ユニット名)	グループホームあさひ B
所在地 (県・市町村名)	新潟県 村上市
記入者名 (管理者)	佐藤 由香
記入日	平成 20年 12月 17日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「その人がその人らしさを発揮し、心身共に安心して生活が出来る場となるよう支援します。」という理念を挙げ、利用される方の支援にあたっています。	理念に添った支援を心掛けています。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	運営理念を目標とし、理念に近づけるように心掛けています。	運営理念を基本にして、年間目標や月間目標をたて、理念に近づけるように取り組んでいます。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族の方々には理念を入居相談時から伝えていきます。地域の方に対しては理念が浸透していくように広報誌等を活用していきたいと考えていますが、今年度はまだ広報誌が発行できていません。	今後は広報誌を通して地域の方へも、その理念をもっと伝えていくようにしていきたいと思っています。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	声を掛け合うようになってきています。特に畑作業では挨拶を交わし、話をしたりしています。	今後も継続的に関わりを持てるような関係になりたいと思います。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の保育園や福祉活動グループとの交流を行っています。	地域の方との交流を今後積極的に行っていく予定です。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>複合福祉施設のため、その利点を活かして相談に応じるなど行っています。</p>		<p>相談に応じるだけでなく、グループホームの機能を活かした支援できるように取り組んでいきたいと思っています。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の自己評価・外部評価を通して、サービスの質の向上について1年間の計画を立てて実施してきました。</p>		<p>今回の自己評価・外部評価、そして今年度実施してきた活動を評価し、より良いサービスを提供できるようにしていきます。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>外部評価と運営推進会議の関連性を理解できなかった部分がありましたが、評価を通してサービスの質の向上に向けて取り組んでいることを会議で相談でき、とても有意義だと思っています。</p>		<p>運営推進会議から地域との交流についてのアドバイスをいろいろと受けています。そのアドバイスを活かして今後も活動していきます。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議をきっかけに、様々な面で相談にのって頂いています。</p>		<p>より市町村と連携し、サービスの質の向上を目指していきたいと思っています。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>学ぶ機会を持ち、また資料を用意し活用できるようにしています。</p>		<p>今後も定期的に学ぶ機会を設けていこうと思っています。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>マニュアルが用意しており、虐待の防止について常に気を配っています。</p>		<p>虐待防止、身体拘束等について定期的に職員が学ぶ機会を設け、職員各自が気を配っています。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に至るまでの経過の中で、利用者や家族に十分説明を行うように心掛けています。また、不安や疑問点がないか尋ねるようにしています。</p>		<p>職員の誰もが、利用者や家族の持つ不安や疑問に対して、きちんと説明が出来るような体制を今後もめざして行きます。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置して、意見や不満・苦情を受けつけています。意見等があれば、各種会議の場で話し合い、運営に反映させていきます。直接意見等を受けた場合も、相談し改善していきます。</p>		<p>意見・不満・苦情があれば、事業所内での相談や法人での会議などで相談し改善していきます。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者個人に合わせて家族や保護者等に報告をするようにしています。</p>		<p>家族の方に定期的な報告をしています。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しています。直接意見を受けた場合も含め、各種会議の場等で話し合い、運営に反映させていきます。</p>		<p>意見等を受けたらすみやかに対応をしていきます。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月例会議などの機会に意見や提案を話し合っています。</p>		<p>今後も続けていきます。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況や行事等に関連して、柔軟な勤務体制をとっています。</p>		<p>今後も相談しながら状況に合わせて臨機応変に対応していきます。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の大幅な異動等によって体制が変化することはないので、馴染みの関係に急激な影響は見られていません。</p>		<p>利用者への気遣いを忘れずに対応していきます。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修に参加し、伝達講習も実施しています。また、各職員が症例を作成し、入居者への支援について学んでいます。		新人職員に対しての研修体制や業務対応マニュアルを整備しました。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との意見交換会に参加し、意見等を相談する機会を得ています。		継続的に交流していきたいと思います。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の親睦が取れており、定例会議などでも話合うなどしています。		職員各自がそれぞれに相手を理解し受け入れており、互いにフォローしあいながらストレスの軽減に努めています。今後もこの関係を大切にしていきます。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各勤務者は、勤務終了後業務を振り返って、反省や気づきを業務日誌に記録し、日々向上心を持ち業務にあたっています。		毎月目標を立てることで各職員が目的意識を持ち業務にあたっています。その状況を運営者は把握しています。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けてから本人が何に困っているのかを話をしたりしながら聴くようにしています。		本人が安心して話ができるような職員の対応を心掛けています。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と同様に相談者が不安なことなどを解消出来るように、相談時や事前訪問時などに随時話し合うように心掛けています。		相談を受けた時から入居に至るまでの経緯の中で、信頼関係を築いていきたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が求めているものを探り、必要であれば他のサービスを説明したり紹介するようにしています。		常に本人や家族の求めているものを理解し、協力できるような支援体制を心掛けています。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら、本人には入居前にホームに遊びに来ていただいたりする等、本人が安心して利用できるように取り組んでいます。		今後も家族の方等と相談しあいながら対応をしていきます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や日課、レクリエーションだけでなく、本人の趣味や特技を共に行い、寄り添って喜怒哀楽と一緒に感じています。その中でお互い色々な事を打ち明け支えあえる家族のような関係を築いています。		職員一人一人が個々を理解し後はもう少し個別に一緒に過ごせるようにしていきたいです。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者のささいなことも家族と相談し、共に支えあえる関係を築けるよう心がけています。		今後も継続していきたいと思います。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族双方に話を聞き理解し、今後の関係がより良いものになるよう努めています。		本人と家族が密接に関わりを望む場合は、家族参加型のイベントを開催して一緒に過ごせる時間をより多く提供する等、今後も利用者と家族が求めているようなより良い関係になれるように協力していきたいです。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人等、本人が会いたいとき、連絡を取りたいときは電話をかけたたり、職員が代行し連絡を取り、なるべく関係が途切れないようにしています。		馴染みの場所に行くことはなかなか難しいため出来る限り支援していきたいと思います。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日課やレクリエーション等を集団で行い、入居者同士が関わり合う場を常に提供しています。仲の良い者同士、お互いの居室を行き来したり、お互いに支えあう関係を大切にしています。		今後も入居者同士良い関係を継続していけるよう支援していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の生活に関しても可能な限り支援しています。退居後併設の施設に移動された利用者とは、時々一緒にレクリエーションを楽しんだり、機会があれば家族の方とも交流することがあります。		退居された利用者や家族から質問や相談があった場合にはできる限り支援していきます。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の趣味や特技、また今どんなことがしたいか等を聞き、本人が希望されたことはできるだけ叶えられるようにしています。		継続して希望されたことはできるだけ叶えられるようにしていきたいです。日課等はできることを見つけて支援していきます。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室担当を決め、個人ファイルの情報の把握、担当でない人とも意見や情報を交換しその方をよく知るように努めています。また利用者との会話の中からも情報を得られるよう、一人一人との会話を大切にしています。		不明確なことは家族に再確認したり継続して利用者個人を理解するように努めたいです。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の様子を生活記録に記入しています。またいつもと様子が違うと気付いた時は、職員の申し送りや送り簿を活用し情報が確実に伝わるようにし、常にその人の現状の把握に努めています。		今後も継続し利用者を把握できるように努めたいと思います。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人や家族の意見を聞きながらケアチェック表と職員各自の意見を参考に作成されます。		継続して支援していきます。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	怪我や病気、認知症の進行等で介護する状態に変化があった場合、それに見合った介護計画を作成し家族とも相談し了解を得ています。		利用者の状態を常に把握し、現状に合った介護計画を立てていけるように努めていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の生活の流れを記録に残し、体調、精神状態、問題点を全員で把握しています。状態に変化が生じた時は職員で話し合い介護計画に反映しています。		生活記録から見えてきた一人一人の個性を活かせるような支援をしていきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複合福祉施設のため、日常的に交流があり、十分な協力体制が確保されています。また、利用者の状態の変化に対し、各専門分野の方に助言や協力をもらい、状況に応じて対応をしています。		ホーム内だけにとどまらず、複合福祉施設の特徴を活かして他施設からの意見や考え方も取り入れて、利用者の支援にあたっていきます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアは積極的に受入れ、地域の文化祭へ作品を出展したりしています。今年は地域の保育園の運動会を見学させていただき交流しました。		地域の理解と協力のもと良い関係が築けるように努力していきたいです。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の必要に応じてケアマネジャーや他サービス事業者と相談し、適切な支援を提供できるようにしています。		今後も本人の意向に添えるように関係者と協働して支援にあたります。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して地域包括支援センターと意見交換しています。		引き続き運営推進会議を通じて情報の交換や協働について考えていきたいと思っています。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意見を聞きながら、かかりつけ医に状態を詳しく報告し、適切な医療を受けられるように支援しています。		今後も継続して利用者の支援にあたります。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療機関と連携がとれており、定期的に連絡、相談、受診を行っています。		今後も継続して支援していきます。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力施設のミーティングが毎日あり、そこで利用者の健康状態を伝え、もしもの時にすぐ対応できるようなシステムがあります。		併設の介護老人保健施設の看護師や主治医と協力、相談できています。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先との情報交換に努め、医師や看護師やソーシャルワーカーと相談・検討し、支援する体制が整っています。		今後も継続し、利用者を支えていきたいです。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の相談を家族と話し合い、その後状態に合わせて今後についての方針を考えていくようにしています。		複合施設のため、本人や家族からの相談等に対し、専門職から適切なアドバイスが得られる状況になっています。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々の状態を職員同士で話し合ったり、医師や家族と密に連絡を取り合っています。状態の変化が見られた際も職員、看護師、医師、家族と話し合い、それに見合ったサービスの検討や変化に備えての準備を行っています。		複合施設のため、各専門職からの協力が得られ、本人や家族の意向を含め利用者に対してチームでの支援を行なうことが可能であり実施しています。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者とその家族の状況を一番に考え、関係者との話し合いを密に行うように努め、その方が落ち着いて住み替えが出来るようにしています。		利用者が安心して環境を移行できるよう、各関係部所と協力しながら支援を行なっていきたいと思えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>守秘義務を守り、一人ひとりの話をよく聴いて個人のプライバシーを守っています。また、個人情報の管理にも気を付けています。</p>	<p>得た情報の管理や個人のプライバシーの保護を徹底し、常に職員間で注意を払っていきます。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者が自分の意思でやってみたい事には全面的に支援し、自分を表現できるように心掛けています。</p>	<p>認知症のレベルによって意思表示できる差はあるが、利用者一人ひとりが自分を表現できるように、その人に合った支援をしていきたいです。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日課や行事への参加も本人の意思にまかせ、利用者のペースに合わせて過ごしやすいようにしてもらっています。</p>	<p>大まかな一日の流れがありますが、話し合いをしながら利用者のペースにあわせた支援を行っていきます。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人や家族の希望を聞いて理美容院を利用して頂き、身だしなみやおしゃれができるよう支援しています。</p>	<p>本人や家族の希望を聞いてその人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援していきたいです。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備、片付けは一緒に行っています。栄養士と相談して利用者の食べたいメニューを取り入れています。</p>	<p>利用者の食べたいメニューを取り入れたり、食事量の低下が見られる利用者にも調理を工夫しながら食事を楽しんでもらっています</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者の望むお酒や飲み物を提供しています。お酒類は夕食時に楽しんでもらっています。</p>	<p>利用者の要望があればできる限り提供していきたいです。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	身体状況に応じた物を使用するだけでなくその方の排泄パターンにあわせてトイレ誘導、介助を行っています。		今後も継続して支援していきます。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好みの時間帯に入浴できるように支援しています。		無理強いせず利用者の体調や気持ちに合わせて入浴してもらっています。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者によって安心できる場所が自室であったり、人がたくさん居る所だったりするため、その人に合わせて対応するように心掛けています。		その方に合った支援を提供し、安心して休んで頂けるように取り組んでいきます。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴などを参考にしながら利用者の方にはできる事に参加してもらい役割として張り合いを持ってもらっています。職員は感謝の気持ちを表し、相手の気分を害さぬように心掛け、利用者が楽しみながら生活できるよう支援しています。		レベルの差はあるがその人に合わせた役割や得意なことを行ってほしいを思います。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状態に応じて、財布等を持ってもらっています。利用者の希望のある時は職員と一緒に買い物に出かけたりしています。家族と相談しながらできるだけお金を所持することや使うことを支援しています。		現在行っていることをそのまま支援していきたいです。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が高齢をなり、歩行が不安定で外出も困難にはなっていますが、車椅子や老人車を利用し畑や散歩に出かけています。		車椅子の数も少ないため多数の散歩や畑仕事は困難ですが、玄関先にシートなど敷物を敷いて戸外での作業を増やしています。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の方の協力を得て外出できるように支援しています。地域の行事(保育園の運動会見学、文化祭鑑賞等)などへも外出しています。		家族との交流も大切ですが、今後はもう少し地域の方とのふれあいを増やし外出を進めていきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添えるように支援し、困難な時には介助しています。		利用者の希望に添えるように支援していきます。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室や食堂などでゆっくり過ごせる場所で面会してもらっています。		いつでも気軽に訪問してもらえるような雰囲気や場所を提供していきます。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行われたことはありません。拘束に関する取り組みがあり職員は周知しています。		これからも身体拘束は行わず開放的なケアに取り組んでいきます。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの構造上開放できない所もありますが、できる限りの場所は開放しています。		入居者の方は自室を施錠される方とされない方がいますが、本人の自由に対応しています。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、危険予測を忘れないようにして、昼夜問わず利用者の状態を把握し、事故や怪我のないよう安全に配慮しています。		今まで通り継続して利用者の安全について考え支援していきます。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	なるべくならば、本人の希望に添えたいが、その方にとって危険かどうかを職員または家族と話し合っています。		本人や家族と話し合い保持できない方は職員が管理し、必要時に手渡しています。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルがあります。また、ひやりハット報告書や事故報告書などを記入し今後の対応などについて話し合いを行なっています。		報告書を記入することによって反省し、今後事故を防止するための検討を行い事故防止策を実施していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に対応できるようマニュアルがあります。また、職員全員が普通救命講習も受けています。		今後も定期的に救命講習を受講したり、勉強会などを行っていきたいです。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行い非常時の対応マニュアルも作成してあります。		複合施設なので、各施設間の連携はできているが地域の人々の協力を得られるように働きかけはしていないので、今後は考えていかなければならないと思っています。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や利用者の体調の変化があった際は、こまめに連絡を取り現在の状況などを説明し、今後考えられることに対してどのようにしていくかを話し合うようにしています。		利用者の状態を観察し、今後起こり得るリスクを家族の方々と相談し対応策をきちんと考えていきたいです。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化の見られる場合やいつもの状態に違いがあった場合にはその状態に応じて、医師、看護師に報告し指示をもらっています。状態によりすぐ家族への連絡も行っています。		今後も継続して利用者の体調の変化、日々の気付きで変化の早期発見と対応に努めて行きます。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りの内服を行っています。職員は利用者の内服薬について周知するようにしています。症状に変化のある時は医師、看護師、家族に相談、連絡しその都度対応しています。		現在の状態を継続していきます。また、新しい職員が入った時には利用者一人一人の薬についてきちんと指導し、利用者が安全に服薬支援を受けることが出来るようにします。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日体操を行っています。水分を多めに取るように心掛けています。また食事内容の工夫や排便記録も付けています。		便秘のため内服薬のある方もいます。きちんと内服リズムに排便できるようにしていきよく観察していきたいです。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日食後に口腔ケアを実施し、口腔観察を行っています。必要な方にはブラッシング介助、義歯洗い介助、義歯洗浄剤を入れています。イソジンうがいも行っています。歯科の受診が必要と思われる方には、家族に相談、状態の報告を行い、歯科受診を勧めています。		必要な方だけでなく、自力で行っている方に対してのブラッシング後のチェックを行っていき、利用者個々の口腔内の状態を把握していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の方が立てる献立をもとに調理しており、水分摂取量や体重なども把握しています。		食事量や水分量が低下していると思われる方には、家族と相談し、本人が好むものを持ってきていただいたり、食事の工夫をしています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対応マニュアルがあり、各感染予防の実施をしています。利用者、職員共に手洗い、うがい、インフルエンザ予防接種を行い、衣類、寝具の清潔保持、洗濯の仕方などを気をつけています。		研修委員会を設置し、委員会を中心にいろいろな研修会が予定されています。それを通して原因や対策などについての知識を増やしていきたいです。現在取り組んでいることは継続して行っていきたいです。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具の掃除。消毒は毎日行っています。食材は週3回発注、納品されます。いたみやすい物はすぐ使用するメニューになっています。また、畑で野菜を作っており、新鮮野菜を使用しています。		今後も気をつけていきたいです。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者の家族の方に協力していただき、庭や花を手入れし玄関前に飾っています。ホームの表札も分かりやすく掲げています。		どなたでも気軽に遊びに来ていただけるよう、常にきれいな状態であることを心掛け、気付いた所はすぐに掃除するように気をつけていきたいです。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には手作りの物、写真、季節の花等を飾ったり、装飾に関しては、利用者の方の作品を中心にしており家庭的な雰囲気が感じられるようにしています。		今後も引き続き配慮してさらに良くなるよう利用者と職員で居心地の良い空間を作っていきます。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの廊下、自室前には長椅子があり、また大小の居間があるのでそこを自由に使ってもらっています。また、数人で洗濯物をたたんでいただいたりし、その際に利用者同士で会話などを楽しんでいます。		自室で過ごされる方もいますが、共用部分では利用者同士のコミュニケーションの場としても活用できるよう考えていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の今まで使っていた食器や家具等、使い慣れた馴染みのものをホームで使っています。各自の自室のレイアウトは居心地が良いように本人と家族とでしていただいています。		本人の居心地の良い空間を探り、それを壊さぬようにしていきます。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	オゾン脱臭が自動で行われており、定期的に点検を行っています。温度、湿度、換気に関しても季節や利用者の状況に応じて、こまめに調節しています。		今後も定期的な点検を行い、換気、空調の管理に気をつけていきます。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖や老人車、手すりなどそれぞれの状態に合わせた補助具を使っただき生活しています。利用者の身長に合わせて物干し台の高さや表札も低くしたりしています。		利用者の状態に合わせた環境づくりを今後も行なっていきます。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の理解力に合わせて目印をつけたりし、迷わぬように工夫しています。		混乱があった場合はすみやかに対応していきます。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭を活用しバーベキューをしたり、お茶会を行いました。季節に合わせた催しに活用しています。		行事の時だけでなく、日常でも縁側や中庭を有効に活用していきたいです。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)